

令和3年度第2回坂井市総合教育会議 会議録（概要）

日 時：令和4年3月10日（木）午後3時より4時20分まで

場 所：坂井市役所 402A・B会議室

【会議日程】

1 協 議

- (1) 坂井市合併後16年間の教育行政について
- (2) その他

【出席者】

坂本憲男市長、川元利夫教育長、若松静榮教育長職務代理者、牧田靖夫委員、田中典夫委員、宮崎美恵子委員

総務部 松本総務部長

教育部 中田教育部長、古川次長（生涯学習スポーツ課長）、
矢尾次長（市立図書館長）

教育総務課 井尻課長

学校教育課 小針課長、上田教育審議監

文化課 高倉課長（丸岡城国宝化推進室長（兼）、みくに龍翔館長（兼））

事務局書記 森田参事、高嶋補佐

【会議概要】

市 長 （あいさつ）

何かとお忙しい中、総合教育会議に出席いただき、お礼を申し上げます。
年明け早々から、感染力の強いオミクロン株の感染拡大が大変懸念される。
本市としてもワクチンの前倒し接種や3回目の集団接種開始など、迅速に対応していきたいと考えている。

私事ではあるが、昨年12月議会において、今期をもって退任する旨をお伝えさせて頂いた。坂井市の初代市長に就任させて頂き、4期16年になるが、これまで特に大きな問題もなく、市政運営ができたものと、私なりに感じている。このことは、委員の皆様方をはじめ、市民の皆様方の心温かいご指導、また大きな支えがあったからこそ、心から感謝をしている。4月22日の任期満了まで、子どもたちが心身共に元気で健やかに成長できるよう、市長部局と教育委員会部局が一体となって努めていきたい。

本日は16年間の教育行政について振り返り、皆様方のご意見等をお伺いしたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

市 長 第2回坂井市総合教育会議を開催する。
坂井市合併後16年間の教育行政について、事務局の説明を求める。

各所管課長 （坂井市合併後16年間の教育行政について概要説明）

- 市長 皆さん、一生懸命仕事をしていただいてこの日があると思う。委員の皆様何か発言をお願いします。
- 牧田委員 学校整備の結果、素晴らしい学校になった。ハード面は整備されてありがたい。ソフト面で、中学校の部活指導に関し、教員の多忙化の一因ではないかと思い、多忙化解消を考えていただけるとありがたい。敦賀で部活指導のモデル事業をしていると聞いたが。
- 市長 教員は本当に忙しいと感じる。先生方には頭が下がる。
- 教育長 教育審議監の方で何かあるか。
- 教育審議監 敦賀や美浜でモデル事業をしているのは、教員が指導している部分もあり、改善の余地があるのではないか。地域移行に関してようやく芽が出始めたのでそちらの方向も考えている。
- 田中委員 社会教育への移行を考えていくのが良いと思う。部活動は、学校活動の一貫であるなら、だれでも指導出来るというものではない。社会教育であるなら、会費を払い指導を受ける。社会教育の指導者としての人材が育つか、職業として成り立つのかという課題がある。社会教育となれば、活動場所への送迎が新たに家庭の負担となる。
- 若松委員 中学生の部活動は教員の負担が非常に大きいと感じる。私は中学校の茶道部へ技術面での指導に行っている。顧問の先生は別でいらっしゃる。技術を見てくれる人がいることはいいことだと思うが、すべての部活動で当てはまるかはわからない。退職教員であれば、生徒指導は慣れているし、技術指導もできるのでそういう人材の活用がひろがるのはいいことだと思う。
- 市長 少人数学級という言葉があるが、どちらが良いのか。
- 田中委員 何人までの人数を言うのかにもよるが、少人数がいいのはいい。
- 教育長 学力的なことでは、少人数がいいが、トラブルがあっても離れたくても離れられないのはよくない。文科省は、標準で2クラスあるのが良い、と示している。運動をするには、多数いて対抗戦ができるというのがいい。
- 若松委員 教室の後ろまで児童がいる学校もあれば、人数の加減で半分ほどの人数の学校もある。メリットデメリットがそれぞれある。小規模校で一人が何役もこなすのもいいが、クラス分けができずに、トラブルがあっても6年間同じ人間関係で過ごさなければならないということもある。低学年で30人を超えるようなクラスは多いなあと感じる。支援の先生がいてくれるが、

少人数クラスとは違うなあと感じる。

田中委員 支援の先生がいてくれるのはありがたい。

若松委員 坂井市は、新型コロナウイルス感染症の中での学校再開時に早くからシルバー人材センターの清掃作業を導入してくれたり、支援員の数が多かったり、学校設備が整っていることで、他市の方からうらやましいと聞く。

宮崎委員 施設整備に関して大変感謝している。一方で、少子化にますます拍車がかかってしまうのではないかと心配している。空き教室があったり、パソコンルームを使わなくなったりするが、統合という考えはあるのか。立地の面でも、地域の特色の面でも、学校はずっと継続してあってほしいと願っている。地域の人オープンに入って来れて、子どもたちと交流できたり、災害時に学校が避難所になったりというのは大事なことだと思う。県では全天候型遊具施設の設置を考えているようだが、健康への関心が高く、そういうものもいいと考える。

教育長 坂井市には19の小学校がある。児童数が100名を割る学校は4校だが、複式学級となる学校はない。今のところ、坂井市として統廃合は考えていない。子育てしやすい環境にして、坂井市へ集まってくることを考えたい。

市長 先ほどの遊具の設置の話だが、維持管理には管理する人も必要だし、費用も掛かる。すぐに判断できるようなことではない。坂井市にはエンゼルランドという立派な県の施設があり、新設するより、そこを利用してもらるのがいい。

市長 (2) その他ということで、何かないか。

教育審議監 (コロナ関連の状況について報告)

市長 他にないか。なければこれをもって本日の会議を閉会する。